

大（応）神塚古墳（寒川町No.8 遺跡）学術調査計画

1. 現状

大（応）神塚古墳は、寒川町指定重要文化財第 19 号であり、町内唯一の墳丘を保った古墳である。明治 41 年（1911）、東京帝国大学の坪井小五郎氏を中心とした発掘調査が実施された他は、昭和 57 年に神奈川県教育委員会において測量調査を実施したのみである。これらの調査から、前方後円墳であり、5 世紀ごろの造築であろうとされている。

しかし、明治期の調査であり、遺物の出土状況、古墳の範囲や周溝の有無、構築年代や方法など不明な点が多いのが現状である。

2. 目的

形態や、範囲、構築年代などの古墳の性格を把握し、今後の保存方法検討のための基礎資料とする。

3. 調査体制

調査主体：寒川町教育委員会

調査指導協力：（公財）かながわ考古学財団

作業委託業者：年度ごとの落札業者とする

4. 調査計画

1) 墳丘測量調査

2) トレンチによる試掘調査

- ・周溝確認（くびれ部、主軸）
- ・墳丘構築状態確認
- ・主体部近辺（明治期の調査跡の確認）

3) 整理作業

4) 報告書刊行

＊年に 1～2 本のトレンチ調査を実施予定とし、3 年をめどに順次試掘調査を実施。調査終了後 3 年内をめどに報告書を刊行する。